

# 地域の活力は人

ぶんごたかだ 豊後高田市長(大分県) さ さ き と し お 佐々木敏夫



## 全国最年長・酒は百薬の長

私は、市長として9年目を迎え、この4月、全国最年長市長(82歳)となりました。「市長、元氣やなあ。」宴席の後、皆さんに決まって言われます。

乾杯のビールに始まり、赤ワイン、日本酒と、会が終了するまで、杯を重ね、出された料理も残さずいただきます。赤ワインのお供には、「豊後・米仕上牛」が最高です。

大分県産の飼料米で育った、黒毛和牛種とホルスタイン種を掛け合わせた牛で、霜降りの中にバランスよく赤身が入り、美肌



豊後・米仕上牛が初受賞! 飼料用米活用畜産物ブランド日本一コンテスト

効果のオレイン酸が豊富に含まれています。

脂はくどくなく、さっぱりしており、牛肉本来のうま味を味わえます。私でも、300gを、ペロッといただけますし、ふるさと納税の返礼品としても人気を集めています。そして、肥育牛の頭数は、大分県の中で、豊後高田市が一番です。

また、晩酌時、酒の肴が<sup>さかな</sup>ない時は、庭に植えたボタンポウフウの出番です。

柔らかい新芽を収穫し、天ぷらにして食べます。別名、長命草と呼ばれるセリ科の多年草で、一株食べれば、一日長生きすると言われています。食後に上がる血糖値を抑えるクロロゲン酸が豊富に含まれており、その効能に着目した大手食品メーカーにより、昨年、機能性表示食品「長命草のチカラ」が誕生いたしました。食後の血糖値が気になる方に、ぜひお試しください。

私の一日はフェイスブックの投稿やコメントのチェックから始まり、朝日が昇るのを待ちます。日課の朝日の撮影は、ついつい、シャッターを切りすぎ、気づけば、撮影した写真が100枚以上になります。私は、風景写真が大好きで、特に、日本の夕陽百選に選ばれている「真玉海岸」には、足



私の自慢のエビネ

しげく通っております。また、市内には、昭和30年代の風情豊かな商店街のまちなみが残る「豊後高田昭和の町」や1000年以上の歴史を誇る「六郷満山文化」、滞在型リゾート地となった花とアートの岬「長崎鼻」など、全国に誇れる観光資源、撮影スポットが数多くあります。その他、朝の日課として、自宅のコイや鉢植えのエビネの世話をしていくと、気づけば公務に行く時間となります。

## 常に前にへこたれず 問題意識も

私は、5人きょうだいの次男として、きょうだいげんかをする、弟だから我慢しなさい。下の妹とけんかをすれば、兄だからと、反骨精神が養われる環境で育ちました。

大学時代、長期の休みには、実家の建設会社を手伝っていました。作業員宿舍生活を通じ、「社長の息子」という色眼鏡を払拭するため、従業員には絶対負けない気持ちで、仕事に取り組みました。

この時、私には勝算がありました。従業員



員と比べ、私は休みの間という期限があります。

そういう意味で、私は、短距離走、常に100%の力が出せました。

また、ガムシヤラに働いただけでなく、どうすれば、効率よく仕事ができるのか、想像力の大切さも現場から学びました。天気が大きく左右される工事現場は、予報を見ながら、雨の日にもできる仕事を考え、進

めていかなければなりません。もし、雨で休みとなれば、工期は延び、その分コストも増えてしまいます。

この常に問題意識を持って考える癖は、その後の建設会社経営、8期の県議生活、そして、市政運営にも生かされていると思っております。

### 消滅可能性自治体からの脱却 さらなる進化を

私の市長就任時、平成26年に日本創生会議から発表された「消滅可能性都市」リストに豊後高田市が掲載されたショックが市政を覆っておりました。私自身、「何もしなければ、市が消滅をしてしまう」という危機感を持ち、一貫して「人口増対策」に取り組んでまいりました。

子育て世帯の現状は、多くが共働きであり、生まれた子どもは誰が面倒を見るのか、経済的な負担の問題

も出てきます。

子育て支援は、未来への投資であり、対策として、「幼稚園、小中学校の給食費の無料化」、「高校生までの医療費の無料化」、「保育園の保育料、幼稚園の授業料の無料化」、「園児から中学生まで無料で学べる市営塾」、さらに、地元・高田高校生のため、難関大学突破に向けた無料の市営塾や、授業料の無料化、そして、昼食の無償提供を行っております。

また、対象者1人当たり4000円の「敬老会補助金」と、77歳1万円、88歳3万円、95歳5万円、100歳10万円の「敬老祝い金」を交付するなど、高齢者に優しいまちづくりにも取り組んでおります。

ただし、政策には必ず財源がセツトで必要になります。行財政改革にも積極的に取り組み、財政状況の指標である経常収支比率は、県内14市で4年連続トップです。

こうした問題意識を持った職員らの努力により、本市は、11年連続人口の社会増を達成でき、民間の出版社が調査する「住みたい田舎ベストランキング」では、人口別ではありますが、総合部門のほか、若者世代、子育て世代、シニア世代の全てで5年連続1位に選ばれています。そして、昨年4月



住みたい田舎ベストランキング5年連続全部門1位

には、人口戦略会議による自治体の持続可能性分析で、「消滅可能性自治体」からも脱却できました。

本年は、新市施行20周年、昭和100年の節目の年に当たります。これらの節目を機に、「地域の活力は人」という市政推進の原点に立ち返り、豊後高田市を消滅させないため、交流人口を増やし、人口増へとつなげる「新たな観光振興」にも力を入れ、市のさらなる発展・進化を目指してまいります。